

線区別収支と営業係数の公表について

2022年5月17日

当社では、「JR四国グループ長期経営ビジョン2030・中期経営計画2025」に基づき、将来のありたい姿の実現に向け、地域とともに「公共交通ネットワークの四国モデル」を追求する等のミッションを掲げ、グループを挙げた最大限の経営努力を推し進めるとともに、鉄道事業の体質強化を図るため、国、地域、ご利用の皆様等関係者のご理解・ご協力を得て、当社単独では対処できない課題を解決していく必要があります。更に新型コロナウイルス感染症の影響により、移動需要の激減・消失や生活様式の変更による需要の不可逆的な変化等、経営環境が大きく変化しており、計画の目標達成を図るべく、様々な取組みを加速させていく必要があります。

つきましては、以下のような観点を踏まえ、経営状況や輸送状況等の情報開示の一つとして、線区別収支と営業係数を公表しますのでお知らせ致します。

地域やご利用の皆様に当社の厳しい経営状況等についてご理解いただき、運賃改定の実施に向けた検討や「四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ」中間整理及び「5カ年推進計画2021～2025」に基づく、地域の関係者と一体となった取組みを推進します。

<「5カ年推進計画2021～2025」抜粋>

- JR四国と地域の関係者は一体となって、この事業計画（推進計画）に基づき、利便性向上や利用促進等に取り組むとともに、四国の活力の維持・向上を支える持続可能な鉄道網の確立に向け、2次交通も含めたあるべき交通体系について、徹底的な検討を行います。

1 公表内容（別紙のとおり）

2019年度、2020年度線区別収支と営業係数

2 対象線区

JR四国管内全線区

3 その他

今後、定期的な公表を予定しています。

<「JR四国グループ長期経営ビジョン2030・中期経営計画2025」抜粋>

○将来のありたい姿

鉄道を中心としたモビリティの提供及びまちづくりを通じた様々な事業を展開し、交流人口の拡大と地域の発展に貢献するとともに、新しい価値・サービスの創造にチャレンジすることで、従業員が誇りを持ち、生き生きと働ける企業グループを目指します。

○ミッション：将来のありたい姿の実現に向け果たすべき役割・使命

地域とともに、「公共交通ネットワークの四国モデル」を追求する

鉄道特性を徹底的に磨き上げるとともに省力化・省人化による生産性向上を推進し、鉄道事業の体質強化を目指します。また、当社グループと四国は運命共同体という認識のもと、地域の関係者と連携・協力し、モビリティ間の連携強化、駅を中心としたまちづくり、公共交通ネットワークのあり方に関する検討などに取り組むことで、四国に最適で持続可能な「公共交通ネットワークの四国モデル」を追求します。

2019年度、2020年度 線区別収支と営業係数について

2022年5月17日
四国旅客鉄道株式会社

線別収支と営業係数 (2019年度)

<凡 例>

営業係数

- 500以上 (赤点線)
- 200 ~ 500 (赤線)
- 150 ~ 200 (オレンジ線)
- 100 ~ 150 (青線)
- 100以下 (青線)

100

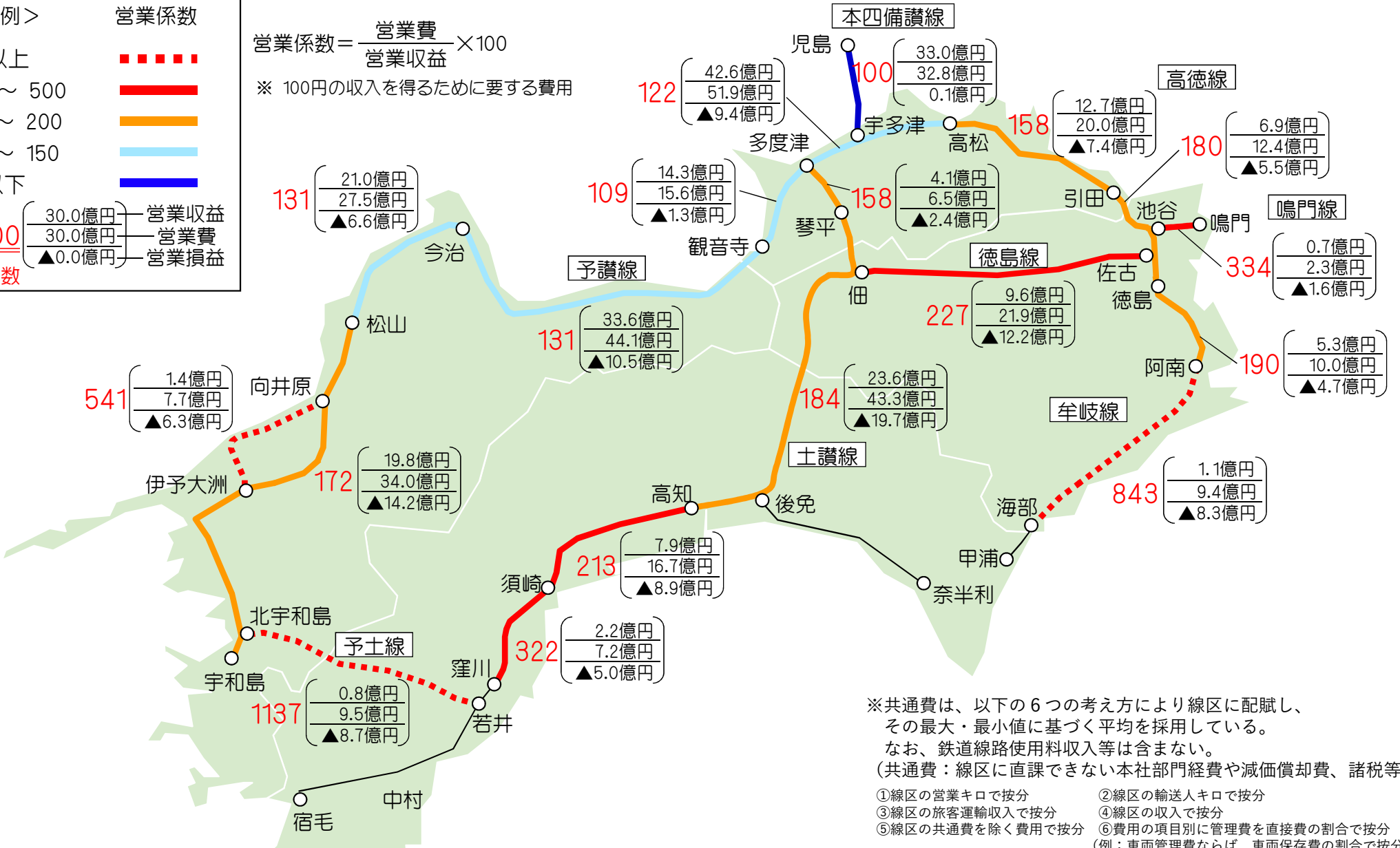
営業係数

$$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費}} = \frac{30.0 \text{ 億円}}{30.0 \text{ 億円}} = 100$$

営業収益 30.0億円
 営業費 30.0億円
 営業損益 ▲0.0億円

営業係数 = $\frac{\text{営業費}}{\text{営業収益}} \times 100$

※ 100円の収入を得るために要する費用



※ 共通費は、以下の6つの考え方により線区に配賦し、その最大・最小値に基づく平均を採用している。
 なお、鉄道線路使用料収入等は含まない。
 (共通費：線区に直課できない本社部門経費や減価償却費、諸税等)

- ① 線区の営業キロで按分
- ② 線区の輸送人キロで按分
- ③ 線区の旅客運輸収入で按分
- ④ 線区の収入で按分
- ⑤ 線区の共通費を除く費用で按分
- ⑥ 費用の項目別に管理費を直接費の割合で按分 (例：車両管理費ならば、車両保存費の割合で按分など)

	営業収益 (百万円)	営業費 (百万円)	営業損益 (百万円)	営業係数
JR四国全線	24,051	37,199	▲13,148	155

※ 共通費の線区配賦に平均値を採用しているため、線別収支の合計値とJR四国全線の値は一致しない。
 ※ 端数は四捨五入処理。
 ※ 今後、共通費の線区配賦方法を見直すことがある。

線区別収支と営業係数(2019年度)

線名	区間	営業キロ (km)	平均通過人員 (人/日)	収支(百万円)			営業係数(円)	【参考】 共通費除く 営業係数(円)
				営業収益	営業費	営業損益		
本四備讃線	児島～宇多津	18.1	23,017	3,299	3,284	15	100	63
予讃線	高松～多度津	32.7	24,014	4,257	5,194	▲937	122	80
	多度津～観音寺	23.8	8,949	1,426	1,557	▲131	109	64
	観音寺～今治	88.4	5,514	3,362	4,410	▲1,049	131	78
	今治～松山	49.5	6,807	2,096	2,755	▲659	131	80
	松山～宇和島	96.9	2,798	1,983	3,403	▲1,420	172	104
	向井原～伊予大洲	41.0	364	142	769	▲627	541	283
土讃線	多度津～琴平	11.3	5,322	412	649	▲238	158	102
	琴平～高知	115.3	2,657	2,360	4,334	▲1,974	184	117
	高知～須崎	42.1	3,734	787	1,673	▲886	213	137
	須崎～窪川	30.0	1,108	224	722	▲497	322	180
高德線	高松～引田	45.1	4,716	1,265	2,005	▲739	158	96
	引田～徳島	29.4	3,633	687	1,236	▲549	180	114
牟岐線	徳島～阿南	24.5	4,749	526	1,000	▲474	190	118
	阿南～海部	54.8	516	112	940	▲828	843	396
徳島線	佐古～佃	67.5	2,824	961	2,185	▲1,224	227	137
鳴門線	池谷～鳴門	8.5	1,925	68	228	▲160	334	198
予土線	北宇和島～若井	76.3	301	84	953	▲869	1,137	334
JR四国全線		855.2	4,416	24,051	37,199	▲13,148	155	—

※予讃線松山～宇和島間は内子線含む、予讃線向井原～伊予大洲間は海線。

※営業係数=営業費÷営業収益×100(100円の収入を得るために要する費用)

※共通費：線区に直課できない本社部門経費や減価償却費、諸税等。

本社部門経費の例) 列車運行計画及び管理、安全・サービスの維持・向上、社員教育及び乗務員養成、総務・財務部門に係わる費用等。

※共通費は、以下の6つの考え方により線区に配賦し、その最大・最小値に基づく平均を採用している(鉄道線路使用料収入等は含まない)。

- ①線区の営業キロで按分 ②線区の輸送人キロで按分 ③線区の旅客運輸収入で按分
④線区の収入で按分 ⑤線区の共通費を除く費用で按分 ⑥費用の項目別に管理費を直接費の割合で按分(例：車両管理費ならば、車両保存費の割合で按分など)

※共通費の線区配賦に平均値を採用しているため、線区別収支の合計値とJR四国全線の値は一致しない。

※今後、共通費の線区配賦方法を見直すことがある。

※共通費除く営業係数：列車運行にかかる経費(乗務員にかかる経費や車両の動力費、駅業務にかかる経費、車両や地上設備の維持・修繕にかかる経費)に係わる営業係数。

※端数は四捨五入処理。

線区別収支と営業係数(2020年度)

<凡 例>

営業係数

- 500以上 (赤い点線)
- 200 ~ 500 (赤い実線)
- 150 ~ 200 (オレンジの実線)
- 100 ~ 150 (青い実線)
- 100以下 (青い点線)

100
営業係数

$\frac{30.0\text{億円}}{30.0\text{億円}} = 100$
 営業収益
 営業費
 営業損益

営業係数 = $\frac{\text{営業費}}{\text{営業収益}} \times 100$

※ 100円の収入を得るために要する費用



線区別収支と営業係数(2020年度)

線名	区間	営業キロ (km)	平均通過人員 (人/日)	収支(百万円)			営業係数(円)	【参考】 共通費除く 営業係数(円)
				営業収益	営業費	営業損益		
本四備讃線	児島～宇多津	18.1	10,642	1,441	2,978	▲1,537	207	134
予讃線	高松～多度津	32.7	15,654	2,509	4,814	▲2,305	192	115
	多度津～観音寺	23.8	5,355	676	1,609	▲933	238	145
	観音寺～今治	88.4	3,059	1,612	4,031	▲2,419	250	141
	今治～松山	49.5	4,422	1,178	2,744	▲1,566	233	131
	松山～宇和島	96.9	1,894	1,354	3,437	▲2,083	254	147
	向井原～伊予大洲	41.0	280	93	698	▲605	754	333
	土讃線	多度津～琴平	11.3	3,657	240	665	▲425	277
琴平～高知		115.3	1,563	1,257	4,182	▲2,925	333	205
高知～須崎		42.1	2,934	573	1,760	▲1,186	307	185
須崎～窪川		30.0	783	132	685	▲553	519	259
高德線	高松～引田	45.1	3,552	796	1,975	▲1,179	248	134
	引田～徳島	29.4	2,481	398	1,179	▲781	296	170
牟岐線	徳島～阿南	24.5	3,563	344	1,057	▲713	307	177
	阿南～海部	54.8	363	79	932	▲853	1,185	510
徳島線	佐古～佃	67.5	2,167	636	2,150	▲1,514	338	184
鳴門線	池谷～鳴門	8.5	1,508	46	223	▲177	483	261
予土線	北宇和島～若井	76.3	205	73	1,027	▲954	1,401	430
JR四国全線		855.2	2,806	13,438	36,013	▲22,575	268	—

※予讃線松山～宇和島間は内子線含む、予讃線向井原～伊予大洲間は海線。

※営業係数=営業費÷営業収益×100(100円の収入を得るために要する費用)

※共通費：線区に直課できない本社部門経費や減価償却費、諸税等。

本社部門経費の例) 列車運行計画及び管理、安全・サービスの維持・向上、社員教育及び乗務員養成、総務・財務部門に係わる費用等。

※共通費は、以下の6つの考え方により線区に配賦し、その最大・最小値に基づく平均を採用している(鉄道線路使用料収入等は含まない)。

- ①線区の営業キロで按分 ②線区の輸送人キロで按分 ③線区の旅客運輸収入で按分
④線区の収入で按分 ⑤線区の共通費を除く費用で按分 ⑥費用の項目別に管理費を直接費の割合で按分(例：車両管理費ならば、車両保存費の割合で按分など)

※共通費の線区配賦に平均値を採用しているため、線区別収支の合計値とJR四国全線の値は一致しない。

※今後、共通費の線区配賦方法を見直すことがある。

※共通費除く営業係数：列車運行にかかる経費(乗務員にかかる経費や車両の動力費、駅業務にかかる経費、車両や地上設備の維持・修繕にかかる経費)に係わる営業係数。

※端数は四捨五入処理。

【参考:過去公表資料】線区別収支と営業係数(2013-2017年度の平均)

<凡 例> 営業係数

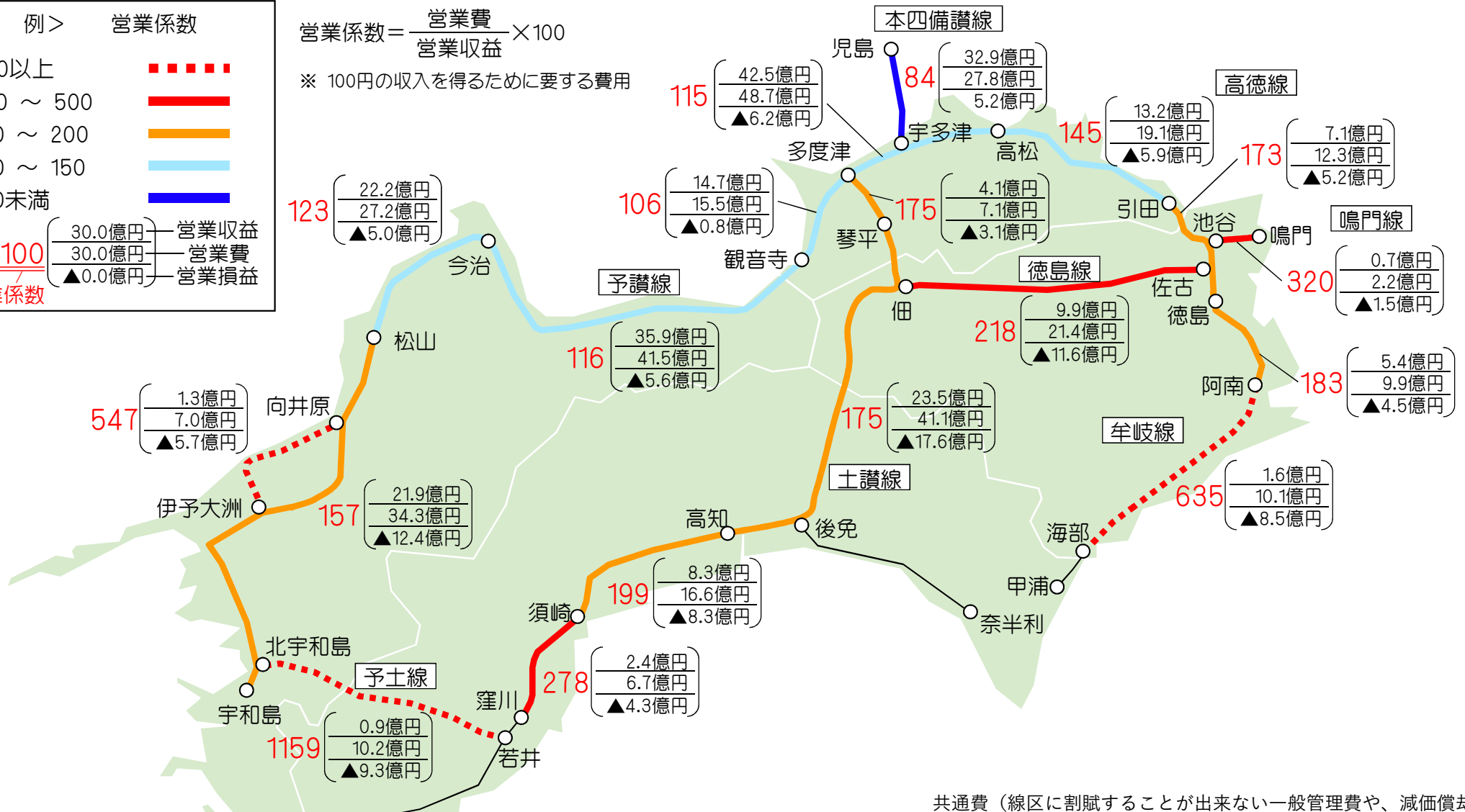
- 500以上 (Red dashed line)
- 200 ~ 500 (Red solid line)
- 150 ~ 200 (Orange solid line)
- 100 ~ 150 (Light blue solid line)
- 100未満 (Blue solid line)

100 営業係数

30.0億円	営業収益
30.0億円	営業費
▲0.0億円	営業損益

営業係数 = $\frac{\text{営業費}}{\text{営業収益}} \times 100$

※ 100円の収入を得るために要する費用



	営業収益 (百万円)	営業費 (百万円)	営業損益 (百万円)	営業係数
JR四国・全線合計 (2013-2017年度平均)	24,838	35,777	▲10,940	144
【参考】バスの場合 (2015年度) 四国内乗合バス12事業者合計 (※1)	12,676	14,646	▲1,970	116

共通費（線区に割賦することが出来ない一般管理費や、減価償却費、諸税など）は、以下の6つの考え方により線区に割賦し、その最大・最小値に基づく平均を採用している。
 なお、鉄道線路使用料収入等は含まない。

- ・線区の営業キロで按分 ・線区の輸送人キロで按分
- ・線区の旅客運輸収入で按分 ・線区の収入で按分 ・線区の共通費を除く費用で按分
- ・費用の項目別に管理費を直接費の割合で按分 (例: 車両管理費 ならば、車両保存費の割合で按分など)

(※1) 国土交通省自動車局編「自動車運送事業経営指標2017年版」をもとに、作成した。